

「みんなが一つになって」

校長 伊藤 泰二

児童生徒の皆さん、夏休みが終わり、今日から学校がはじまりました。

今年の夏は、新型コロナウイルス感染症防止対策の他に、熱中症対策も合わせて行うというたいへんな夏休みとなりました。そうした中、夏休みの生活について予定どおり行うことができましたか。我慢をすることが多く、ストレスをためてしまったというお友達もいるかもしれません。でも、先生やお友達との再会で元気が出てきたのではないのでしょうか。

ところで、私はこの休み中に、和光市の歴史について調べてみました。

和光市の歴史は古く、奈良時代頃に渡来系の人々がこの地に移り住んで白子川一帯の土地を開拓していったのがはじまりとされています。そのため、はじめは新羅（しらぎ）郡という名前が付けられ、やがて平安時代になると新座（にいくら）郡と呼ばれるようになったそうです。一説によれば、和光市の地名のうち、白子（しらこ）は新羅がなまったもの、新倉は新座が転じたものだと言われています。地名にも歴史があるのですね。

残念ながら実際に訪れることはできませんでしたが、インターネットで学ぶことや間接的に体験することができました。

インターネットで、『和光市歴史の玉手箱』と検索すると、和光市の歴史や遺跡、文化財、伝説と昔話が紹介されています。HPで紹介されている伝説、昔話の紙芝居を楽しんだり、学校のある場所あたりは昔はどうだったのかな？など、自分で調べてみることも楽しいですよ。

終わりに、学校HP「夏休みを迎えるにあたって」にもふれたように、新型コロナウイルスの世界的な拡大は、私たちの生活面だけでなく、心の中や人と人とのつながり方にも大きな影響と多くの変化をもたらしています。コロナに負けず、引き続き、人とのつながりの大切さ、かけがえのない命の大切さを学んでいきましょう。

そして、何より、みんなが一つとなって、前を向いて歩んでいきましょう。